

第53回

岩手朝日テレビ放送番組審議会

議 事 録

(平成13年11月)

2001.11.28

株式会社 岩手朝日テレビ

第53回 放送番組審議会議事録

1.開催日時 平成13年11月28日(水)午前11時～

2.開催場所 岩手朝日テレビ本社3階会議室

3.委員の出席

委員総数 10名

出席委員数 9名

委員長	増子 義孝
副委員長	及川 和男
委員	石井 三郎
委員	小川口 柳太郎
委員	笠川 さゆり
委員	大坊 忠
委員	松尾 正弘
委員	松本 直子
委員	宮野 裕子

欠席委員数 1名

委員	植本 花子
----	-------

会社側出席者名

代表取締役社長	蓮見 博民
専務取締役	桑折 勇一
専務取締役	村上 昇
取締役	横館 英雄
業務局長	河邊 喬
報道制作局長	星井 孝之
技術局長	菊地 一行
番組審議会事務局長	佐々木 瑞夫
全国朝日放送	竹下 修

4 . 議 題

- (1) 12・1月の番組編成について
- (2) テレビ朝日「スーパーモーニング」
アシスタントプロデューサー 竹下 修 氏 ご挨拶
- (3) 番組合評
「スーパーモーニング」について
- (4) その他（系列24社代表者会議報告）
- (5) 次回の審議会
開 催 日：平成14年1月23日（水）
合評課題：「サタっぱち 古館の日本上陸」
- (6) 閉 会

5 . 概 要

ワイドショーは芸能ネタばかりと思っていたが、アフガン問題や政治関連などの硬派な内容がニュースよりも詳しく報道されていて驚いた。

主婦が主な視聴者であるが、取り上げているネタが社会に密着したものが多く、勉強させられる部分も多い。

F3層が主なターゲットのせい、全体的にゆっくりと番組が進行し、忙しい朝には不向きな部分もある。

取り上げるネタがアフガン問題や外務大臣問題が多くてやや食傷気味。

6 . 議事の内容

- 佐々木
事務局長 只今から第53回番組審議会を開催いたします。
それでは弊社、蓮見社長よりご挨拶申し上げます。
- 蓮見 社長 おはようございます。
今日は大変お忙しいところ、また日頃はIATの番組をご覧になって頂いて意見を頂きましてありがとうございます。今日は特別にテレビ朝日から、番組の現場の制作者が来られておりますので、ネット番組の制作に関して直接竹下さんに質問していただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。
最近テレビに関する批判、例えばくだらないであるとか、青少年の健全育成に役立っていないのではという意見が大変ございます。電波を預かっている我々はそういった批判に対して自浄努力をしておりますが、番組審議委員の先生方のご意見が、こういった問題を解決していくために大切なご意見となりますので、これからもよろしくお願ひしたいと思います。
それでは、今日は竹下さんにも制作の立場からお話があると思いますので、この点を中心に審議会を進めて参りたいとおもいますので、よろしくお願いいたします。
- 佐々木
事務局長 それでは増子委員長、議事の進行を宜しくお願ひ致します。
- 増子 委員長 それでは早速、12月1月の番組編成についてお願ひします。
- 河邊
業務局長 それではお手元の資料をご覧下さい。まずレギュラー番組では、来年1月のミッド改編に伴いストーリー系の4番組が変更になります。単発番組では、12月1日(土)「時の渚～衝撃の運命」。これはサントリーと文芸春秋、朝日放送が主催したサントリーミステリー大賞の大賞受賞作をテレビ化したものです。12月8日(土)16:00～16:30「安全を食卓へ～いわて牛が届くまで～」IAT制作で、県農林水産部長と岩手大学農学部助教授を招いて、狂牛病の正しい知識や、牛肉が食卓に届くまでの管理などについての内容です。12月15日(土)「小学生クラス対抗30人31脚全国大会2001」。11月23日埼玉スーパーアリーナで行われた決勝大会の様をお送りします。また年末年始になりますと、ゴールデンでは12月25日ネイチャリングスペシャル「地球最後の秘境ワハーン」～アフガン・パミール高原を世界初取材～(仮)を、26日は「君の手がささやいている 最終章」シリーズ第5弾、集大成をお送りします。元旦は朝7時から「30人31脚事後番組(仮)」として、12月15日に伝えきれなかった部分を紹介していきます。また「ザ・グレートライブ2002」では豪華アーティストたち出演のライブを、その後はドラマスペシャル「鉄道員」をお送りします。1月2日9:00～9:55「懐かしの歌コンサート～甦る昭和の名曲」IAT制作で、昭和20～30年代に活躍した歌手、青木光一や二葉あき子ら13名の公演を12月24日に収録するものをお送りします。2月、3月にも放送予定です。10時台は「旅・温泉・グルメ そして名作」毎年行っております東北ブロック共同制作です。今回は文豪が愛した北の宿と題して、文学作品の舞台やゆかりの宿などを紹介します。岩手からは「高橋克彦と花巻鉛温泉」をお伝えします。また11時

台は「活謹情報局(仮)」と題して正月らしい内容の生中継番組を予定しております。13時からは知事対談を予定しております。以上のように、年末年始は単発番組をバラエティ豊かに取り揃えております。詳細につきましてはお配りした資料をご覧ください。

増子 委員長 ありがとうございます。それでは竹下さんのお話を頂いてから、質問を交えながら「スーパーモーニング」についての合評を行いたいと思います。竹下さん、一言お願いします。

竹下 氏 テレビ朝日の竹下です。私はこの10月から「スーパーモーニング」のプロデューサーのアシストという形で参加しております。日が浅いものですから番組の隅々まで把握しきっていない部分もあり不手際もあるかと思いますがご了承ください。まず番組の狙いは、朝一番のワイドショーですので、一番新しいホットなネタを真っ先にお届けする、事件や事故といった社会的なネタから芸能ネタ、生活ネタなどジャンルにとらわれずに幅広く取り上げることです。この時間帯は裏局も殆どがワイドショーや生活情報番組をやっておりますし、ターゲットは当然、在宅率からして主婦層が中心になります。TBS系とCX系が主にF2層、比較的若い主婦層を掴んでおりますので、スーパーモーニングは日テレ系の「レッツ」と並んで、とりわけF3層、50歳以上の主婦層が主なターゲットになっております。次いでF2層、M3層が視聴のターゲットの中心になっているのが現状です。

また、司会はジャーナリストの蟹瀬誠一、局アナの下平さやか、平石直之。特にジャーナリストの蟹瀬さんが司会ということで、主に社会ネタに力を入れる傾向があります。問題点としては、正直いまして視聴率が苦戦しております。背景には今年5月の小泉総理大臣の誕生、それに伴う田中大臣の人気。続いて9月のアメリカ同時多発テロ、アフガニスタン攻撃という、政治や国際問題といったワイドショーが今まであまり取り扱ってこなかったジャンルの、大きなネタが続いていることがあります。発生した当時は、蟹瀬さんや専門のコメンテーター、テレビ朝日の川村さん等の活躍もあって、比較的上手くこれらのネタを取り入れることができて、視聴率的にも当初は比較的好調に推移しておりました。これらの問題が一段落した訳ではありませんが、ここに来てテーマがやや硬直化しているという問題点があります。ワイドショーならではの芸能・生活ネタの取り入れが少なくなり、バラエティ感がやや薄れ、やはり内容がアフガンと政局、田中大臣の動向に中心になってしまっています。現在、この2つのネタをしっかりと固めつつも、鋭意フットワークをつけてこれ以外の事件や芸能にも敏感に対応するように努力しているのが現状です。

また、番組後半には企画コーナーがあります。火曜日にスタジオで行う「徹底討論」という討論コーナーが比較的好評でして、10月からは水曜日に「芸能界裏も表もお構いなし」という芸能界トークもの、木曜日には「世の中なんでもこうなるの」という社会ネタのトークもの、という形でリニューアルを図っております。

特に岩手の方は狂牛病に関連した報道にご関心が高いと思いますが、テロ事件と重なったこともありまして、比較的扱いが少なかった部分はあります。狂牛病報道に関してスーパーモーニングとしましては、専門家のご出演であるとか、安全性についてのバランスの取れた、風評被害等のことも充分考えた報道を心がけております。

簡単ではありますが、現状と問題点をお話ししまして、皆様方から忌憚のないご意見を頂いて、今後の制作に役立てていきたいと思っております。

増子 委員長 ありがとうございました。それでは委員の皆さんから質問を交えながらご意見を頂戴していきましょう。

笠川 委員 今お話しを伺った、ターゲットであるとか番組進行の具合が、今回私が番組を見て思った感想そのままだったのですが、敢えてお話しするとしたら、やはり主婦をターゲットにしている時間帯だと思いますし、私の年代の主婦にとってこの時間帯は有職、専門に関わらず、忙しくて忙しい時間帯なんですね。テレビは「見る」というよりも「聞く」というラジオ感覚の時間帯でもあって、内容によって気になるものには目を向けて、時計代わりにしている面もあります。朝ですからある程度テンポ良く、そしてニュースによっては早朝の番組よりは詳しく解り易く、そして芸能とかに関しては短時間に多く、内容によっては面白おかしく、聞いていて理解できるものを私は求めてしまいます。スーパーモーニングが合評番組だと伺ってから、私の生活リズムの中で見ようと思いましたが、私の受けた印象はどちらかと言うと昼のワイドショーのような、ゆっくりじっくりとした進行で、朝これから一日頑張るぞという時間帯の割には、司会やレポーターの声のトーンも落ち着いていらっしゃるので、きっとこの番組は落ち着いてお茶でも飲みながらこの時間帯を過ごせる人達をターゲットにしているのかな、という印象を受けました。ですから先ほどの竹下さんの50代以上の方がメインのターゲットだというお話しを聞いてなるほどなと思いました。私もやはり見慣れたものを見てしまって、ビデオ録画で見たものもありました。中で面白いなと思ったのは9時台のトークものですね。各界の裏話なんか聞いて、時間があればゆっくり腰を据えて見たい内容でした。以上です。

宮野 委員 外で働いている私にとって、朝のワイドショーはあまり見る機会の無いものです。今回に関しましては自分が出勤する9:10まではリアルタイムで見ましたし、その後はビデオ録画をして見ました。やはり、じっくり見なくては難しいテーマが先に来ていると思います。岩手では8時30分から始まるワイドショーが2局と8時スタートが2局ありますが、出だしのトーンが非常に重いので、出掛ける前にサッと見てはられない、腰を据えて見ないと難しい部分が多かったです。それで録画で夜見ることが多かったのですが、やはりここ数週間はアフガニスタン問題と田中大臣の動向が多かったです。アフガン問題に関してはニュース性が高くどの局よりも新しい情報が流れていると思います。ただし、それをゆっくりと見て理解するには、朝のあの時間帯には無理があるかなと感じました。お茶を飲みながら見るには朝早すぎますし、ちょっとその辺りが問題なのかなと思います。11月21日の放送の中で、アフガニスタンについて30分以上やっけていまして、それに関連して黒柳徹子さんが登場して、アフガニスタンを訪れた時の様子を語ったり、徹子の部屋の予告編やゴルバチョフさんとの会談のシーンが出たりとしていましたが、多方面からの取り上げ方は非常に良いと感じました。また23日には「ハリー・ポッター」の取材を放送していたりして、いずれにせよ、取り上げ方はとても良いのですが、視聴者が考えなければいけない、という事が朝の番組としては難しいと思います。1時間55分をじっくり見ている人はいないと思うので、どこに時間の重きを置くの

か。主婦層ですとやはり8時台はまだバタバタしているのではないか、やはり9時過ぎないと一段落しないと思いますし、バタバタしている時に低いトーンの声で水口さんなんか解説されると、もう少し解り易く・・・という面もありまして、その辺りを考えて頂きたいと思います。ここ数週間は本当にアフガニスタンと田中大臣ばかりで、ああまたか、と感じた次第です。

松尾 委員

ワイドショーは主婦層対象の番組ですので、今回これを取り上げるということで、恐々見た訳です。やはり芸能ニュースがメインだと思って見ましたが、大幅に違って驚きました。小泉内閣の誕生からアフガン問題がありましたので、時期的にそれが先に来ているんだろうなと思って見ましたが、それらを面白おかしくではなくて、硬派に真正面から取り上げていたので驚いたというか感心しました。アフガン問題については普通のニュースと変わらない取り上げ方だったのではないのでしょうか。それから、そろそろ雅子様のご出産も近づいているのでそれについてもやっていたけれども、それも浮付いていない、かなり硬派な作りだったと思います。美智子様の頃の古い映像を取り入れたりしながら、かなり準備周到に進めているなという気がしました。私自身はワイドショーは見ませんが、ワイドショーの功罪は様々あると思いますが、今回、見てみて政治的社会的ネタを主婦層に広げたという意味では非常に評価していいのではないかと思います。

最後に質問ですが、8時スタートと8時30分スタートの局がありますが、一般的な家庭の流れで8時15分からの朝の連続ドラマを見てからチャンネルを換えて8時30分から、という大きな流れがあると思うのですが、それを意識している点はあるのでしょうか。

竹下 氏

開始時間に関しては編成全体に関わることで、恐らく他局よりも早く始めた方が有利であろうということだと思います。NHKの連ドラはだいたい視聴率20%以上を確実にとる番組で、それが裏にあることは当然意識した作りはしています。番組の流れとして、テーマをどのように並べるかという時、8時あたには当然一番強いニュース、関心の高そうなものを持ってきて、8時15分の裏にぶつかるころには、二番目に強いものを持ってくるのが普通の考え方なんでしょうけれども、それははずす傾向はあります。8時に強いニュース、そしてちょっと外して8時30分がまた一つのスタートとしてまた強いニュースを持ってくるという、番組構成の傾向があります。ですから、番組を見ていて「これが二ネタ目か？」と思われることはあるかも知れません。

松尾 委員

了解しました。ありがとうございました。

及川 副委員長

あまりよく見られなかったのですが、4回見ました。やはりアフガン問題、狂牛病、真紀子大臣がネタとしては多かった印象を受けました。ワイドショーについては前々から、週刊誌的な取り上げ方と言いましょか、これは特に見出しで表れてきますが、「真紀子大臣 国会に殴り込み」という文字が入ったりしますが、週刊誌においては見出しは編集長の特権であって、編集部員は付けられないそうですが、週刊誌的な見出しが目立つということと、政治は本来は真面目なはずだったのが、政治家の質もあるのでしょうか、センセーショナリズムというか面白おかしくして

しまうところがこういう番組にはある訳で、それぞれの功罪はあると思います。今度見まして、政治社会問題を大衆的に興味を惹くように取り上げながら関心を高める働きと、テレビ朝日としての批判性というもの、ジャーナリズムの批判性というようなものを感じることが出来ました。6日の真紀子大臣のG8出席問題、人事課長更迭問題、それから例の指輪事件ということに絡んで、事前にFAXで視聴者の意見を募集したり、国会議員を何人か呼んで討論の場を設定したり、ニューヨークタイムズの記者へのインタビューを取り込んだり、そういう構成はとてもいいんじゃないかなという印象を受けました。22日の狂牛病では、皆、安全性の問題とそれに絡む行政の責任にピントが合っているわけですが、最初に出てきた専門家でしょうか、学者みたいな日本人が、日本とイギリスを比較して安全性を説得しようとしたけれども、全く説得性が無いんですね。発生数が2頭に18万頭だと。人口はイギリスの2倍であるとか、食生活の違いで向こうは脳を食べたりハンバーグに入れたりするとか、遺伝的感受性についてはクエスチョンだけれども、というようなことで、パチパチと計算するとかなりゼロに近い確率みたいなことを言うんですが、これにはさすがにおすぎも喰い付いていましたけれども、説得性に非常に欠けたと思います。ただ、10月18日の安全宣言から1ヶ月の経過、それから行政がミスを出して整理して、それが行政の責任論として論議されていったという流れは、次の日にも繋がっていましたし、良かったんじゃないかなと思うんです。ただ私としても一つ、司会者なりコメンテーターなりの誰かが、もう一つの観点を明瞭にして貰いたいなということですね、狂牛病という具体的なネタを取り上げているわけですが、人間の命に関わる食品という点で普遍性を持っている問題だと思うんです。そういう食品という人間の命の源に関わる人々、これは行政もだし生産者もだし、流通、販売といろいろあると思うのですが、全体としてやはり人々のモラルと言いましょ、倫理観が欠けていたり蝕まれていたりしているんじゃないかと。これは消費者側の格好の良いキュウリとか何かを欲しがりたいな消費者側の問題もあるけれども、単に牛肉だけではなく食品全般に渡って提供する側の、やはりモラルにおいてどうなのかという、この辺りへの切り込みを期待したい訳です。そうすると単に牛肉だけの問題ではなくて、皆が考えたり、責任の所在について思いを巡らせたりするという、こういう働きを持っているのではないかと思います。23日のまた真紀子大臣でしたけれども、発っちゃった後に久保田元駐パキスタン大使にテレビ朝日がインタビューしまして、3つの提言を引き出している訳ですが、これは行く前に聞かせたかったと誰かが言っておりましたが。これは、本当の難民の姿を心に取り込んで来て欲しい、2番目はパキスタンの日本への信頼感を感じて来て欲しい、3番目は世界の外交の最前線、修羅場に入って行くわけだから、そこを良く見て現地の大使館員達がどれだけ努力しているかということも見てきて欲しいというような3点なんですね。こういうような提言を引き出したことはお手柄だと思うんです。真紀子大臣を巡る低次元の低レベルの論議をアウブヘンするような働きを持っていたんじゃないかなということで、総体としてジャーナリズムとしての批判性を発揮しながら、なかなかショー的な番組でありながら、もとのところで非常に真面目な制作だなというようなことを感じました。

石井 委員

実は今日の合評番組を勘違いしまして「やじうまワイド」を見ていました。今朝気が付いて慌ててみましたら、丁度、雅子様の映像が出ていました。短時間しか見て

おりませんのであまり申し上げられませんが、確かに、やじうまワイドと比べてではありますが、同じ朝の番組でもこれ程雰囲気が違うのかと感じた次第です。やじうまワイドは2時間の間に同じテーマが繰り返し出てくる、或いはいつ何が飛び出すか解らないという、落ち着いて見られない部分があります。スーパーモーニングはある意味落ち着いて見られるなど。仕事が多忙でニュースステーションを見逃してしまった場合に、翌朝、後追いで落ち着いて報道してくれる番組があると常々思っているのですが、むしろやじうまワイドをもう少し落ち着いた形にして頂いて、という事は考えられないのかなと思いました。それから、先ほどの竹下さんのお話しにありましたターゲットですが、民放4局が同じような時間帯に同じような番組をやっている、ターゲットというのはそんなに違うのかということは、今日初めて解ったのですが、これは局自体の姿勢の問題だと思います。私も、各テレビに時々スポンサーとして番組を提供させて頂く時、やはりターゲットに合う番組かを非常に気にするわけですが、他の民放3局に比べてテレビ朝日は中高年あるいは男性をターゲットにしておられまして個人的には評価していますが、スポンサーとしてはもう少し若い層向けの番組も作って頂いたほうが、提供も出しやすいと感じた次第です。以上でございます。

大坊 委員

私も今日、慌ててチャンネルをひねりました。石井委員が言われたように雅子様のお話をしておりました。皆さん言われますように、ターゲットに対しての時間帯ということには私も疑問を持ちます。ただ見ていて、リアルタイムのニュース性と経済性を絡ませて話すので主婦の方々にも非常に勉強になると思います。と言いますのは、ロイヤルベビーに関連した商材、今どんな商品がデパートやスーパーに売り込まれようとしているのか、またそれが1300兆円とも言われる個人金融資産という数値を出して、その1%の14兆円がこの市場性の経済効果に繋がってくるのではないかということは、本当に主婦が見るニュースと全体の経済を絡ませていると思います。次にデパートの高額の豪華おせちが並ぶ様子を映していましたが、この不景気に何故このような高額商品が売れるのかについて説明したりと、一歩先を読んだ報道をしていますね。それを見て私も自分の仕事にどう関連させたいのかと今日の内容は私にとっても非常にためになる内容でした。ただ、冒頭にお話しした時間帯については、本当にこの時間でいいのかなという疑問は持ちました。以上です。

小川口 委員

皆さんおっしゃるように、この時間帯に見ているのは主婦層かなと思いながらビデオ録画をして見ました。2時間弱の番組を見るのは疲れますね。私が見た11月15日は内容が9つのテーマに分かれていて、まずは愛知での子ども誘拐事件、次にアフガン情勢、それからやはり田中大臣。国会中継の内容で、質問者の小宮山さんという女性が産経新聞を出しながら質問をしていましたが、それを見たスタジオでは「田中大臣と産経さんはライバルというか犬猿の仲なんですよ」というようなコメントをされていました。田中さんと産経さんの関係は皆さんご存知でしょうけれども、教えていただければと思います。そして芸能、最後は熱血リーダーこれは長かったですね。竹下さんはターゲットは50代と言いましたが、私の家内は8時15分からNHKの連ドラを見て、すぐ30分からは花まるを見ています。気安く見られる、堅くないからだそうです。ですからその辺との兼ね合いはどうか

ということですし、それから若い人を投入されたらという、どなたかのご意見がありました。例えば教育番組的な面からの若い人の取り上げ方、というようなことがあってもいいと思います。いずれ、私自身この手の番組は初めから芸能問題が多いのかなと思いつながりながら見ておるものですから、なかなか腰を落ち着けて見たことがないものですから、夜のニュースステーションに移ってしまうのですが、いずれこのように9項目に渡る番組というバラエティなものを構成する、作成者側の苦労は並大抵のものじゃないなと思っております。本当にご苦労様でございます、という感じは致しております。以上です。

松本 委員

この時間帯は皆さんおっしゃるように、どの局でも同じようなワイドショーをやっていますが、その中でどの局を見るかなと鼻屑目なしにみて、私はスーパーモーニングは見応えがあって良い番組だと思います。取り上げ方、掘り下げ方、同じ狂牛病やアフガニスタン問題にしても、取り上げる方向や意見を引き出す方、先ほど及川先生がおっしゃった、元駐パキスタン大使の久保田さんから意見を引き出すことですか、方向を違えることでこんなにもマンネリじゃない番組が出来るとなると感心しながら見る事が多くて、内容としてはとても良い番組だと思います。ただ、見ていて思うのは、ここ数年女性アナウンサーは積極的に発言したり、番組に占める役割が大きくなってきているという流れの中であって、下平アナウンサーは今だに番組に添えられたお花と言いますが、ちょっと物足りない気がします。私が女性に厳しくなったのかも知れませんが、喋りが少ないというだけではなく、他の方が喋っている最中の表情なり視線の動かし方なり、何かしらこの方物足りないなと感じました。それに比較して男性に甘くなったのか、男性アナウンサーは大変しっかりしていて「えー、あー、そのー」といったことは殆どないパキパキした物の言い方は、喋ることの内容自体に信頼感が持てるというか、安心感があります。狂牛病に関して、及川先生が食全体へのモラルを問うて欲しいとおっしゃっていましたが、大賛成です。そのことまで突っ込むかどうかで深まり方が全然違うと思いますし、他局で一切これに関してはやっていないと思いつながら、狂牛病の報道を見ておりました。これが良い機会だと言ってしまうと、被害を蒙っている方々には申し訳ない気がするのですが、これをいっぺんの騒ぎや問題で済ませてしまわずに、深く掘り下げて頂きたいなと思います。

増子 委員長

ありがとうございました。私からも一言。
一体、今の日本で2時間丸ごと番組を見れる人はどのくらいいるのかと、ふと思いました。50歳以上の主婦層をターゲットにしているということで、視聴率でとっておられるけれども、実数でどの位見ているとお考えですか。

竹下 氏

実数というのはなかなか難しいのですが、ビデオリサーチのデータで当日に視聴率とどの層が見ているかが出ますので、それを元に考えております。そのデータの分析に基づいてターゲットを設定している部分もございます。もちろん、若い層も取り込めるようには努力しておりますが、やはりベースとなる50歳以上の層は確実に押さえつつも、ということです。

増子 委員長

それで、何せ長いですから私もビデオを撮って見ました。普通の人は番組を丸々は

見られないわけですよ、よほど暇な人でないと。ビデオで何本か見ているうちに、及川先生が先ほどおっしゃったように、これはテレビの日替わり週刊誌なんだとようやく解りました。つまり、全部見る必要はなくて、週刊誌のようにパラパラと捲って面白そうなところだけ読んで、ということなんですね。いくら主婦でもこの時間帯にベタッと座って見ている人は少ないんじゃないかなと思います。つまり、日替わり週刊誌だと思うとなるほど納得するわけです。政治から芸能からありとあらゆるものが入っていて、その好みのところを摘んで見るということなんだと、私は了解したのですが。さっき皆さんがおっしゃったように、硬派なニュースを真面目に作っていらして、普通の人が普段だったら接することのないようなニュースをじっくりと見ることが出来る。そこはいかにもテレビ朝日らしいと思うのだけれども、先ほど視聴率が下がってきたとおっしゃっていたのですが、やはりテーマがアフガンとか狂牛病とか真紀子さんとか。これはもの凄く第一級のテーマで、普通のニュースで見ていると十分に面白いんです。これだけ報道が続くと、相当に詳しい解説をしているし、それも非常に面白いし。ワイドショーでは週刊誌風にアレンジはされているけれども、だいたい内容が解るので、2つも見る必要は無いんですね。ニュースとして一級品だから、その苦しさはスーパーモーニングに今出てきていると思いますね。私が感じたのはそんな事でしょうかね。他にご意見等ございますか。

松尾 委員 たまたま、お昼のワイドスクランブルを見た時に、スーパーモーニングと全く同じ映像を使って同じテーマの内容をやっていました。言葉が悪いのですが同じネタの使いまわしという気がしたのですが、こういった場合は番組全体の構成やコメントで違いを出しているのでしょうか。

竹下 氏 私も以前、ワイドスクランブルのプロデューサーをやっていたので、スーパーモーニングとの重複については、非常にご指摘を受ける事があります。スーパーモーニングは朝一番のワイドショーで、ワイドスクランブルではその午前中の動きをフォローすることは当然念頭にあります。しかしアフガン問題などテーマによっては、だいぶ重複する部分があります。しかし、アフガン問題に関して言うと、ストレートなニュースの他にもサイド的なネタを入れたり工夫はしております。その辺りの差別化、区別化は出来ていた気がします。

及川副委員長 今回のことに関連しますが、スーパーモーニング、ワイドスクランブル、スーパーJチャンネル、そしてニュースステーション。夫々にスタッフがあってチームがあって、取材も夫々にやっているのですか。共通したところもありますか。

竹下 氏 基本的には夫々の番組が取材しておりますが、今回のテロ事件などは一番組で完全にフォローすることは困難ですから、JチャンとNステが属する報道局とスーパーモーニングとワイドスクランブルが属する情報局とが共同体制をとって素材を共有することはありますが、全く同じにならないように、各番組独自の取材は出していますね。それを組み合わせて放送しておりますね。

増子 委員長 スーパーモーニングを放送中に新しいニュースが入ってきた場合は、それを番組中叩き込むことはやらないんでしょうね。ニュース番組で放送したものを週刊誌風に

アレンジして出すのが通常なんですか。

竹下 氏 いいえ、2時間放送しておりますし、海外ですと時差があってスーパーモーニングの時間帯が一番情勢が動いている場合もありますから、放送中に何か動きがあれば急遽生中継を入れたりだとか、取り込んだりということは、しばしばありますね。

増子 委員長 普通のニュース番組はだいたい30分以内で内容も全て伝わりますし、一日の出来事を一通り見るなら、現代人にとってはそれ位がぎりぎりの時間じゃないか、試行錯誤をして修練した結果の30分だと思います。この30分のニュースで概略が解るのに、それに対抗して2時間という長い番組を作るのだから、その分だけ難しいと思います。

竹下 氏 そうですね、概略は30分で解ると思います。そこを、周辺取材を含めて深くすることによって関心のありそうなテーマを掘り下げていくことが、ワイドショーの形だと思います。

増子 委員長 今、やりにくいのは普通のニュースがテーマを深く掘り下げているから、プラスアルファの裏ネタを探し出すのは普段より難しいように感じますね。

松尾 委員 私もそう思います。ワイドショーには公開井戸端会議のような性質があるじゃないですか。事件や事故や芸能の話題をまず伝えて、コメンテーターが服が素敵だとかこのブランドだとか好きなことを語って、それを余裕のある人が見るというところがあると思います。ところが今はアフガンや国会やら硬派な事を前面に持ってきますから、あまりふざけた事も言えない。どうしてもコメンテーターも硬い人を呼びますから。その辺が、私が抱いていたワイドショーのイメージと大分違った点ですね。

竹下 氏 政治や国際問題といった殆どワイドショーが扱わなかったネタを、何故今回扱うのかというと、F3層という年代の高い主婦にも関心があるというデータが出るからです。主婦は難しい話にはついて来ないという固定観念が我々にはあったのですが、そうではない、主婦も政治や国際問題に充分関心があるんだというデータが出たので、今回は特別大きなテーマであるかも知れませんが、これだけ長い期間、継続的に伝えてきた訳です。

増子 委員長 ほかにご質問はございますか。竹下さん、何かご感想などございましたらお願いします。

竹下 氏 常日頃、我々が制作しながら気に留めている部分を大分ご指摘して頂いて、なるほどこういう見方をされているのかということは大変参考になりました。ターゲットをいかに広げていくかは視聴率を上げていく重要な要素の一つだと思いますので、これからの課題に考えていかななくてはいけないと思います。また2時間という時間は非常に長くて、視聴率は8時が一番のピークでそれからだんだんと下がっていきます。つまらなくなると他局に変えるよりもテレビを見なくなる時間帯だと思いま

すので、いかに長く視聴者を引っ張れるかを制作者が戦略として考えなくてはいけないと思います。

増子 委員長 ありがとうございます。よろしゅうございますね。
それでは及川先生、系列番審代表者会議の報告をお願いします。

及川副委員長 前回の番審の翌日、新潟へ行って参りました。ここでは放送番組全般についてという課題、審議で系列24局の夫々が3分ずつしか発言できなかったのですが、2年前に出た時と比較しても、意見のピントが拡散しないで4つほどのピントを結んでいたんじゃないかと思います。一番目はニューヨークでの同時多発テロとアフガン侵攻に関わる報道の在り方。特にニュースステーションとサンデープロジェクトについての意見が多くありました。二番目は地域に根ざした番組制作。例えば東北ブロックのような共同制作などについて、結構意見が出ておりました。三番目はいつも出る訳ですがテレビが面白くない、見たくもない。特にドラマ系統は食い足りないという意見がいくつも出ておりました。四番目はデジタル化が進む中での問題ということでしょうか。だいたいこの4点に絞られるような意見が多彩に出ておりました。私は次のような内容で発言致しました。一番目のテロとアフガンの問題では、アメリカ寄り、一面的な情報が特に発生時には多かったけれども、しかしそれは修正されてきて、相対としてテレビ朝日は健闘しているという評価です。二番目の地域に根ざした番組については、情報が中央寄りになる中で地方発信の重要性が問われているのではないかと、また自主制作や共同制作への意欲の盛り上がりですね。青森の番審では、地域に根ざすということは一体どういう意味合いなのかについて、特別に時間を設けて論議したとか、そういう建設的な意見が多く見られて、その中で東北ブロックの共同制作が評価されていたと言えると思います。三番目がテレビが面白くないということなのですが、これは長野から出たのですが、30代40代を切り捨てていくような傾向への不満、制作費をケチるといようなことから出てくる問題、それから特に番組改編期にくだらない長時間番組が繰り返しあることへの批判。その中でこの秋は「反乱のポヤージュ」が好評だったようです。いいドラマを作って欲しい、青少年を感動させるドラマが欲しいという要望が出ておまして、その関連で「ジャングルブック」は好評のようでした。四番目がデジタル化の関連ですが、携帯電話の普及で特に若者たちのテレビ視聴がどう変わるのか、それへの影響はどうなのかという問題意識、それからデジタルテレビが売れないのは前から言われている値段の高さもあるけれども、番組内容が魅力的でないということもあるのではという意見も出ておりました。特徴的だったことは、プログレス賞優秀作・佳作に4編選ばれて、IATの「スポットライト」はもう少しで入賞できたので残念でしたけれども、この受賞者が全て女性のディレクター、プロデューサーなんですね。これは女性パワーがとても目立ったという点で、どなたも感想を述べておりました。そんな印象でございます。

増子 委員長 ありがとうございます。何か及川先生に質問等、ございますか。
それでは審議を終了いたします。

7. 審議機関の答申または改善意見に対してとった措置
特になし

8. 審議機関の答申または意見の概要の公表
12 / 1付 朝日新聞岩手県版に審議概要を掲載。
系列各局に議事録を送付。
本社受付に議事録を常備、閲覧に供す。
インターネットホームページに掲載。

9. その他の参考事項
特になし

10. 配布資料
12月1月度単発番組編成予定表
2002年1月スタート新番組
IAT年末年始編成案 第2案
10～12月タイムテーブル